

押川典昭先生のご業績についてご紹介いたします。

押川先生は、1995年10月に本学に着任。22年半の長きにわたって、インドネシア語や東南アジアの文化を中心に教鞭をとってこられました。

先生の大東文化大学における22年半を改めて回顧すれば、研究、教育、学部・大学運営、大東スポーツ、すべての分野にまさに空前絶後の足跡が深く刻まれていることを感じずにはられません。

国際文化学科の学科主任にはじまり、国際関係学部長、東松山キャンパス担当の副学長、総合企画室長の要職を歴任されました。学部長時代には、押川学部長のリーダーシップにより、国際関係学部の取組が文科省の特色GPに選定されました。副学長時代には、東松山キャンパスの再開発事業に奮闘され、総合企画室時代には、第二期の認証評価の土台づくりをされました。また、2013年度から5年間にわたってラグビー部の部長を務められ、昨年度には、22年ぶりのリーグ優勝という快挙を成し遂げました。

押川先生の研究上のもっとも大きなご業績は、プラムディヤ・アナンタ・トゥールの小説の翻訳です。20年をかけた『人間の大地』四部作（『プラムディヤ選集2～7』）翻訳の功績で、第59回（2007年度）読売文学賞（研究・翻訳賞）を受賞されています。

押川先生の50歳代～60歳代の大半は本学の発展のために捧げられたといっても過言ではありません。70代、80代、90代は、何よりもご健康に留意され、ご自身のため、そして遣り残されたご研究にエネルギーを注いでいただければと思います。

本日は、誠におめでとうございます。